

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	米国Minnesota州で、炭疽による死亡が確認された施設がさらに2つ追加された。これらはMarshall郡およびPolk郡にある。炭疽が原因の死亡の最新報告は2006年7月25日の肉牛における炭疽である。
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	米国Texas州で、2006年9月18日に、Texas Department of Health Servicesは獣医公衆衛生担当官らに、Texas Veterinary Medical Diagnostic Laboratory(TVMFL)によりKinney郡の4才のウシで炭疽の診断が確定されたことについて注意喚起を行った。
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	Canadian Food Inspection Agency(CFIA)は、最近10日間で炭疽が疑われるウシの死亡76頭を報告した。検査で3例が陽性症例と確定された。洪水で土壌の細菌に暴露したことが炭疽のアウトブレイクの原因と考えられる。
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	カナダChaplin地域の農場においてウシ3例が炭疽で死亡しているとCanadian Food Inspection Agencyが2006年7月21日に述べた。この夏、炭疽はSaskatchewanで既に発生しており、7月21日現在50の農場で216頭の動物が死亡している。
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewanで動物の炭疽による死亡は779頭に達した(先週53頭が死亡)。先週5つの牧場施設における感染が新たに報告された。
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	カナダSaskatchewanにおいて153施設で炭疽が確認された。これら施設における動物(ウシ、ウマ、ブタ、ヒツジ、バイソン、シカ、ヤギ)の死亡は783件である。Manitobaにおいては変更ない。
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日	2006年4月13日、カナダ食品検査庁(CFIA)はBritish ColumbiaのBSE疑いウシの確認検査を実施していることを公表した。このウシはカナダ国内BSEサーベイランスプログラムによりFraser Valley農場で確認された。州による初期スクリーニング検査後、更なる分析のためにWinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターに送付された。4月16日、最終的な検査の結果、このウシがBSEであることが確定したと発表した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日	2006年4月16日、カナダ WinnipegのForeign Animal Diseaseの国立センターは最終的な検査の結果、British ColumbiaのBSE疑いウシ(6才の乳牛)がBSEであることを確定した。感染源について調査中である。
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	Canadian Food Inspection Agencyは、2006年4月16日に確認されたBritish Columbia州のウシにおけるBSE症例についての調査を終了した。特定の感染源は発見されていないが、調査員らは、種々の原料を運んだり、受け取った乗り物および道具がBSEの病原因子によりウシの飼料を汚染した可能性があるとして決定した。この症例とカナダにおける4例目のBSEの動物への飼料の原料供給業者が共通していることも確認された。
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	カナダManitobaの食用の成牛1例において最終検査結果によりBSEが確定され、Canadian Food Inspection Agencyは包括的な調査を実施している。
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	カナダAlberta州の50月令の乳牛がBSEであることが確定された(カナダで7例目)。このウシは7月10日に予備検査に基づいて初めて報告された。このウシは焼却処分され、ヒトまたは動物の食物連鎖に含まれていない。
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	Canadian Food Inspection Agency(CFIA)は、2006年7月13日にBSEと診断されたAlbertaの50月令の乳牛に関する疫学的調査の結果を出した。このウシの死骸はヒトまたは動物の食物(飼料)系に入っていない。禁止された物質によりウシの飼料1バッチが汚染された可能性のある事例が1軒の飼料販売店で記録されており、このバッチの飼料全てがBSE陽性のウシの農場へ送られた。この飼料が最も可能性の高い感染源である。
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	2006年8月23日、カナダで、Alberta州の肉用の雌牛がBSEであることがCanadian Food Inspection Agency(CFIA)により確定された。オーナーなどにより提供された予備情報によると、この動物の年齢は8から10才であり、飼料に関する禁止令導入前または実施早期にBSE因子に暴露した可能性がある。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
284	2006/10/31	60666	セローノ ジャパン	下垂体性性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポ ルトガルを 除く	添加物	有	無	有	ウシ膿ほう性 口内炎ウイル ス感染	OIE Disease Information 19(15) 2006年4月13日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイル ス感染	OIE Disease Information 19(34) 2006年8月24日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイル ス感染	OIE Disease Information 19(37) 2006年9月14日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイル ス感染	OIE Disease Information 19(38) 2006年9月21日	60665に同じ
												ウシ膿ほう性 口内炎ウイル ス感染	OIE Disease Information 19(39) 2006年9月28日	60665に同じ
												炭疽	ProMED- mail20060615.1665	60665に同じ
												炭疽	ProMED- mail20060626.1775	60665に同じ
												炭疽	ProMED- mail20060707.1868	60665に同じ
												炭疽	ProMED- mail20060726.2057	60665に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												炭疽	ProMED-mail20060724.2044	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060721.2010	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060817.2300	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060811.2256	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060921.2699	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060706.1858	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060726.2059	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060912.2581	60665に同じ
												炭疽	ProMED-mail20060916.2635	60665に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月13日	60665に同じ
												BSE	カナダ Canadian Food Inspection Agency 2006年4月16日	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060617.1680	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060706.1855	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060714.1937	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060825.2413	60665に同じ
												BSE	ProMED-mail20060823.2384	60665に同じ
285	2006/10/31	60667	セローノ・ジャパン	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	有	鳥インフルエンザ	ProMED20060412-0070	中国南部在住の41才女性が、肺炎様症状で発病したため、H5N1型トリインフルエンザウイルス感染であるか検査されていると、WHO当局が4月11日に発表した。患者は、2006年3月30日にWHO北京事務所に報告された。広東省の州都広州にある市場で野菜を販売していたこの女性は、咳嗽、発熱および頭痛を発症して入院した。女性は、生きた家禽が販売されていた場所近くで働いていた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月19日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update9)：中国衛生省はH5N1トリインフルエンザによる同国における17例目の症例を報告した。症例は、Hubei省Wuhan市の21才の出稼ぎ労働者男性で、2006年4月1日に発症し、重体で現在入院中である。男性の暴露源は調査中である。2005年11月以来、Hubei省において家畜のアウトブレイクは報告されていない。男性の密接な接触者は医学的観察下におかれている。現在のところ中国はH5N1感染症症例17例を報告しており、そのうち11例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月21日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update10)：中国衛生省は同国における12例目の死亡症例を通知した。死亡症例は以前に報告された症例で、Hubei省の21才男性である。症例は2006年4月19日に重症呼吸器疾患で死亡した。中国における検査確定症例17例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年4月27日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update11)：中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で18例目のヒト感染症例を報告した。症例は南西部Sichuan省の8才の女児で、2006年4月16日に発熱および肺炎を発症し、入院したままである。衛生省によれば、初期調査により家畜の死亡が症例の自宅近くで最近発生したことが確認された。中国における検査確定症例18例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年6月16日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update12)：中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国19例目のヒト感染症例を確認した。患者はGuangdong省Shenzhen市の31才の男性で、6月3日に発症した。感染源についての調査が実施されており、予備的報告では、症例は発症前に、生きた家畜が売られている地域の市場を訪れたことが示された。この地域では家畜におけるH5N1感染は公式に報告されていない。現在までに報告された中国における検査確認された19例のうち、12例が死亡している。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060713.1934	中国のGuangdong省における最も最近のトリインフルエンザのヒト症例は回復の徴候を示している。この症例との密接な接触者98例において、疑われる症状(肺炎またはトリインフルエンザ様症状)は確認されていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用指置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060804.2158	中国のGuangdong省における、最近のトリインフルエンザ患者 (Shenzhenの31オトラック運転手) が2006年8月2日に退院したと地元保健当局が発表した。この患者は中国で回復したトリインフルエンザ患者の中で、最も重症であった。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060622.1729	2003年11月(中国がWHOにヒト感染について報告した2年前)に中国本土でトリインフルエンザにより男性が死亡したことを、Beijingの科学者らが2006年6月22日に発行予定の医学雑誌(New England Journal of Medicine)で述べた。男性の死亡は当初SARSが原因であると考えられた。このことは、SARSによると考えられた他の症例も実際にはH5N1トリインフルエンザによる死亡だった可能性を示唆する。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060629.1800	中国衛生省は、2003年11月にH5N1トリインフルエンザで死亡した男性症例に関する報告(N Engl J Med 2006; 354: 2731-2732)について独自の調査を実施している。この報告は8名の中国の研究者によるもので、当局は同誌に発表されるまでこの症例を知らなかったと言っている。
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月8日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update13): 2006年8月8日に中国衛生省は、2003年11月に遼りH5N1トリインフルエンザウイルスによるヒト感染症例をレトロスペクティブに確認した。症例はBeijingを拠点とする軍人の24才男性で、2003年11月25日に発症し、重症呼吸器疾患で12月3日に死亡した。本症例の確認により、中国本土における最初のH5N1ヒト感染事例が明らかとなり、現在のアウトブレイクにおいて最初に確認された症例となる。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20060812.2261	中国衛生当局は連絡の問題により、H5N1トリインフルエンザのヒトにおける初めての症例の報告に2.5年の遅延があったことを2006年8月10日に発表した。Beijingの24才の軍人が2003年後期にトリインフルエンザに感染していた。中国はこの症例を中国の研究者らがNew England Journal of Medicineにおいてレターを発表した後に初めて確認した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2006年8月14日	中国におけるトリインフルエンザの状況 (update14) : 中国衛生省は、H5N1トリインフルエンザウイルスによる同国で21例目のヒト感染症例を確認した。症例はXinjiang Uygur自治区の62才男性で、2006年6月19日に発症し、7月12日に死亡した。症例の検体に関する初期検査は陰性であった。7月および8月に検査を繰り返し行ったところ、最終的に陽性結果であったことが、2006年8月14日に衛生省により確認された。症例の疫学的調査により死亡または病気のトリへの暴露歴を明らかにすることはできなかった。
												デング熱	ProMED20060416-0010	香港で、25才男性のデング輸入例が確認された。この患者はタイから帰国後2006年3月29日に発病し、6日後に入院した。この患者は回復しすでに退院した。この患者は2006年での8人目の輸入デング熱患者である。この患者の25才女性の同行者は、昨日デング感染が確認された。
												デング熱	ProMED20060422-0090	香港で、健康予防センター(Centre for Health Protection)は、25才の女性のデング患者を確認した。これにより年間累計患者数は9人になった。全例とも輸入例である。この患者は、発熱、頭痛、筋肉痛、関節痛の症状で4月7日に来院した。この患者は1月28日から4月7日までインドネシアを旅行していた。
												デング熱	ProMED-mail20060608.1593	香港で健康予防センター(Centre for Health Protection)は2006年6月1日にデング熱の輸入症例(36才、男性)を確認した。患者はマレーシア在住である。2006年で12例目の輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060604.1553	台湾の環境保護局はデング熱のアウトブレイクに対して予防措置をとるよう呼びかけた。蚊が発生する場所をなくすことが唯一の予防策であると言っている。
												デング熱	ProMED-mail20060719.1989	台湾Kaohsiungで2006年7月6日に初めての固有のデング症例が発見された。続いて更に6例が発見され、合計7例となった。デング蚊指数は常に高く、検査された地域の約92%で警戒レベルである。
												デング熱	ProMED-mail20060730.2110	台湾の疾病管理センターは南部でデング熱の脅威が増加するおそれがあると2006年7月25日に発表した。今年のデング熱症例は59例であるが、そのうち17例が国内で感染しており、17例中15例がKaohsiung Cityで報告されている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	ProMED-mail20060806.2196	Kaosiungにおけるデング熱のアウトブレイクの悪化は継続していること、2006年7月6日にKaosiungのQienzeng地区でデング熱症例が報告されて以降、デング熱の発生は悪化している。これまでに報告された症例は28例で、同地区で25例、Qianjin地区で3例である。
												デング熱	ProMED-mail20060901.2486	香港でMa On Shanの62才の男性がデング熱を確認された。2006年7月1日から28日まで中国本土へ旅行し、2006年8月1日に発熱し、現在は回復している。本年の症例数は22例で、全て輸入症例である。
												デング熱	ProMED-mail20060911.2577	2006年9月4日現在、中国Guangdong省で、先週、デング熱症例数が倍以上の219例となり、半数がまだ入院中である。中国の専門家らは最近の高温多湿の天候や、蚊に対する取り組みが不十分であることがアウトブレイクの原因であるとしている。台湾では第35週(2006年8月27日～9月2日)に、デング熱症例90例が報告され、31例は検査で確認された。9月2日現在、今年の報告症例数は721例で、そのうち202例が確認された。死亡例は報告されていない。
												ハンタウイルス	ProMED20060513-0010	2006年3月、台湾CDC(疾病管理センター)は、検査室で確認されたハンタ腎症候性出血熱(HFRS)の患者3人の集団発生の報告を受けた。3人の患者は同室者で、海軍に従軍して、2006年1月24日から軍艦に滞在していた。ELISA法にて、ハンタウイルスIgMおよびIgG抗体とも陽性で、IFA法によって、Seoul亜型であることが判明した。軍艦と寮施設の13匹の齧歯類のうち、6匹が(ハンタウイルス)検査陽性であった。新たな疑い例の発生があり、5月3日から軍人全員が軍艦から退去した。
												ウイルス感染	ProMED20060414-0010	中国北部の高校で、学生1名が未確認のウイルス性疾患により死亡し、数十名が高熱で入院したため、学校が閉鎖されたと4月12日国営メディアが報じた。医療当局は陝西省での流行がトリインフルエンザではないとする一方で、ウイルスの特定に努力を続けている。この疾患は、3月末にチーシャン郡(Qishan county)の19才の学生が高熱を発したことで明らかとなった。現在のところ、トリインフルエンザや新型肺炎の可能性は除外されたが、この疾患の感染性は強まっており、正確な原因と感染経路は特定されていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												感染	ProMED-mail20060621.1712	2006年6月12日以降、中国Shaanxi省Mizhi郡において生徒および教師60名が熱性疾患を発症している。大部分の生徒は高温および乾燥した空気が原因の呼吸器感染症を発症したと考えられ、より少数の生徒は流行性耳下腺炎および百熱咳を患っている。病原体の特定はまだされていない。
												インフルエンザ	ProMED-mail20060624.1757	中国で、2006年6月11日～22日に、Guangzhou大学の130名を超える学生および職員がインフルエンザ(インフルエンザ型疾患)に感染した。同様の症例は同市の他の学校においても発生している。主な症状は発熱で、重症にはならない。
												感染	ProMED-mail20060828.2449	中国南西のYunnan省のLuliang郡Xincun村で、住民39例が重度の疼痛に苦しみ、2006年8月22日までに1例が死亡し、3例が入院した。最初の調査結果により腸チフスが示唆された。
												日本脳炎	ProMED-mail20060827.2441	中国Shanxi省Yuncheng市で日本脳炎のアウトブレイクによる死亡の合計は19例に増加し、感染者は38例であると地域保健当局が2006年8月12日に述べた。Henan省ではさらに14例が日本脳炎で死亡し、既に報告された28例の死亡に追加された。2006年7月以降、437例が感染したとHenan省保健当局は述べた。
												日本脳炎	ProMED-mail20060909.2565	台湾の届出伝染病サーベイランスシステムに基づき、2006年8月27日～2006年9月2日に日本脳炎が台湾で7例報告された。2006年9月2日時点で、2006年に台湾全域で188例報告され、このうち20例が確認された。1例はベトナムからの輸入症例、19例は地域症例である。
286	2006/10/31	60668	大洋薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	People's Daily Online 2006年4月18日、5月24日	2006年4月18日付けの情報によると、ベトナムLam Dong省で2550頭のブタとウシが口蹄疫に感染した。Duc Trong地区では2250頭が感染し、そのうち800頭以上が死亡した。5月24日付けの情報によると、感染はさらに36の市や省に拡大した。17100頭近くのウシと水牛、ならびに約18400頭のブタが感染した。
												炭疽	ProMED-mail20060720.1993 ProMED-mail20060912.2581	カナダSaskatchewan州で家畜の炭疽感染が拡大している。2006年7月18日現在、47施設が隔離されている。ウシ148頭、ウマ6頭、ブタ1頭などが死亡した。9月12日現在、153施設が隔離されている。ウシ475頭、ウマ6頭、ブタ1頭などが死亡した。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
287	2006/10/31	60669	大洋薬品 工業	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	People's Daily Online 2006年4月 18日、5月24日	60668に同じ
												口蹄疫	ベトナム文化情報 省2006年9月1日	ベトナムのハノイのSoc Son地区ではウシ75頭、ブタ39頭が口蹄疫に感染した。Thanh Tri地区では155頭が感染した。口蹄疫の流行はベトナムの12の地方に発生し、3300頭以上のウシ、1100頭のブタが感染した。
												炭疽	ProMED- mail20060720.1993 ProMED- mail20060912.2581	60668に同じ
288	2006/10/31	60670	大洋薬品 工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	People's Daily Online 2006年4月 18日、5月24日	60668に同じ
												口蹄疫	ベトナム文化情報 省2006年9月1日	60669に同じ
												炭疽	ProMED- mail20060720.1993 ProMED- mail20060912.2581	60668に同じ
289	2006/10/31	60671	大洋薬品 工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	有	無	無	野兔病	ProMED- mail20060601.1531	米国Texas州Rick Husband国際空港の東側で1羽のジャックラビットの死骸が回収された。現地付近では20羽以上の野兔が死んでいた。死骸はCDC細菌性動物寄生体症局へ送られ、蛍光抗体試験の結果、野兔病に陽性であった。コヨーテの死骸のダニも野兔病に陽性であった。殺虫剤の散布などヒトへの感染防止対策が採られている。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
290	2006/10/31	60672	バクスター	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1041-1043	タイで2005年11月28日にトリインフルエンザを発病し、12月7日に死亡した5歳の少年の血液検体を調べた。RT-PCRにより、血漿はH5N1インフルエンザウイルス陽性であった。ウイルスを分離し、遺伝子配列を決定したところ、A/Thailand/NK165/05 accession no. DQ372591-8であった。ヘムアグルチニンとノイラミニダーゼ遺伝子について系統遺伝学的分析を行ったところ、2004年初めにタイで発生した野鳥のインフルエンザウイルスの特徴と同じであった。
291	2006/11/01	60673	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
292	2006/11/01	60674	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血清	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
293	2006/11/01	60675	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	DNase I	ウシの臓臓	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
294	2006/11/01	60676	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	RNase A	ウシの臓臓	製造中止により記載なし	製造工程	無	無	無			
295	2006/11/01	60677	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	トリプシン	ブタの臓臓	製造中止により記載なし	製造工程	有	無	無	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2006; 80(S): 297 第80回日本感染症学会総会学術講演会	比較的稀とされるブタ連鎖球菌による髄膜炎の症例報告である。串焼屋に勤める57歳女性で、発熱、頭痛、嘔吐、幻視等を呈した。血液培養ではグラム陽性桿菌が検出されたが、髄液培養ではグラム染色陰性であった。最終的にブタ連鎖球菌が同定された。未調理の豚肉から感染したと考えられ、中国では集団感染が発生したこともあり、感染の危険性について認識が必要と思われる。
												E型肝炎	日本輸血学会雑誌/第54回日本輸血学会総会 2006; 52(2): 231	北海道地区において試験的に献血時にHEV関連問診を追加するとともに、HEV NATスクリーニングを実施し、問診の有効性とHEV感染の実態を調査した。結果は、HEV問診に該当したのは765名(0.3%)で、その内の1名(0.1%)にHEV RNAが認められた。HEV NATスクリーニング陽性者は20名(HEV問診該当者1名を含む)で、陽性率は1/11,090であった。陽性者の多くはALT値が正常でHEV抗体は陰性であった。道内の献血者のHEV RNA陽性率は予想以上に高い。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
296	2006/11/01	60678	デンカ生研	乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン	GL37細胞	アフリカミドリザルの腎細胞由来	製造中止により記載無	製造工程	有	無	無	結核	結核 2006; 81(3): 310 第81回日本結核病学会総会	20代男性が、職場のサルが集団で結核を発症した後、しばらくしてから肺結核と診断され、RFLP分析の結果、サルからの分離菌と同一菌株であることが判明した。結核は人畜共通感染症になりうる。
												人畜共通感染症	第75回日本寄生虫学会大会 2006年5月19-20日	ネパールのカトマンズの小児病院で分離されたプラストシスチス株中に珍しい遺伝子型が検出され、それと同じ遺伝子型が現地の寺院に生息するアカゲザルから分離したプラストシスチス株に高率に見出された。このことから、当地におけるプラストシスチス感染の一部は、アカゲザル由来株がヒトへ感染伝播した可能性が高い。
297	2006/11/02	60679	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	HBs抗原たん白質(huGK-14細胞由来)	ヒトの肝臓	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	PLoS Med 2006; 3: e263	インド洋諸島でのアウトブレイクを引き起こしているチクングンヤウイルスについて、127名の患者由来の6つのウイルス単離体の遺伝子配列ならびに糖蛋白質E1の部分的配列を調べた。その結果、アウトブレイクは東アフリカ単離体に関連のある株で始まったことが明らかとなった。アウトブレイク単離体の非構造蛋白では10個のアミノ酸変異が見られた。構造蛋白部分では膜融合糖蛋白E1に2つの注目すべきアミノ酸変異が見られた。E1蛋白のA226V変異は最初の株では見られなかったが、レユニオンからのウイルスの90%以上で見られた。
												赤痢	IASR 速報 pr3206	2006年8月中旬に中国に3日間出張し、帰国3日後より発熱、腹痛、粘血便を伴う下痢が出現した37歳男性は、便よりShigella sonneiが検出され、細菌性赤痢と診断された。5日間のFOM継続投与により症状軽快し、除菌確認後、第11病日に退院となった。分離菌はペニシリナーゼ産生、セファロスポリナーゼ非産生で、CTX-M型で、ESBL(extended-spectrum β -lactamase)産生性が示唆された。
298	2006/11/02	60680	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ胎児血清	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
299	2006/11/02	60681	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウシ血清アルブミン	ウシの血液	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
300	2006/11/02	60682	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	DNase I	ウシの臓腑	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
301	2006/11/02	60683	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	ウサギ抗ヒト血清アルブミン抗体	ウサギの血液	日本	製造工程	無	無	無			
302	2006/11/02	60684	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	マウス抗HBsモノクローナル抗体	マウスの血液	日本	製造工程	無	無	無			
303	2006/11/02	60685	明治乳業	沈降B型肝炎ワクチン(huGK-14細胞由来)	トリブシン	ブタの膵臓	アメリカ	製造工程	無	無	無			
304	2006/11/02	60686	メルスモン製薬	胎盤絨毛分解物	胎盤絨毛分解物	ヒト胎盤	日本	有効成分	無	無	無			
305	2006/11/06	60687	東和薬品	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 914-920	2005年7月中旬から8月末の間に中国四川省で215例のヒト連鎖球菌感染が報告され、うち66例は確定例であった。全ての感染例は、原因不明で死んだブタや病気のために食用になったブタを屠殺する過程で暴露した農業従事者で発生した。61例(28%)が連鎖球菌毒素ショック症候群を呈し、うち38例(62%)が死亡した。その他、敗血症(24%)と髄膜炎(48%)または両者であった。単離された全ての菌は tuf、種特異的16S rRNA、cps2J、mrp、ef、および sly に対する遺伝子に陽性で、単一の株であった。
												寄生虫感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 176-177	ヒトにおけるBertiella studeri感染の報告であり、このbertiellosis症例は中国で初めての報告である。患者はAnhui省Suzhou市の3.5歳の少年で、6ヶ月間にわたり頻りに腹痛を訴えていた。両親は便中に寄生虫がいることに気づいていた。初め、友鈎糸虫と診断されたが、Bertiella studeriであった。感染源は確定されていない。
306	2006/11/07	60688	日本ビーシージー製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 335-345	大部分のワクチンまたはワクチン製造工程でウシ組織由来物質が使われている。ワクチン製造に使われる最初の組織を、固有のTSEリスクに基づいて選択することがまず重要であり、安全な起源の第一評価として地理的因子を用いるより安全性が高い。組織が適切に集められ、加工され、詳細な記録が保管されることは必須である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												人畜共通感染症	Dev Biol (Basel) 2006; 123: 273-280	ワクチン製造、ウイルス診断試験または原料試験に使われる細胞培養に添加する動物起源物質の使用は、ワクチンを汚染し、接種した動物で血清転換や疾患を引き起こし、検体の誤診断や間違った試験結果の原因となるおそれがある。血清や細胞培養をモニターするために獣医生物化学センターで用いられている方法を紹介した。培地や添加物としてウシやブタなどの動物起源原料を使用する際には、ヒトへの交差の可能性も考慮し、検査、血清フリー培地、起源の確認、ウイルス不活性化、検査方法の改良が必要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Gen Virol 2006; 87: 1043-1046	BSEに感受性のあるPRNP遺伝子型ヒツジにBSE物質を経口摂取させると、宿主の体内にプリオンが広く分布した。ARRホモ接合体ヒツジはTSEに耐性があると考えられているため、ヒツジの群れからスクレイビーを根絶し、小反芻動物BSEリスクからヒト食物連鎖を守るために選択されてきた。しかし、ARR/ARRヒツジで同様の実験を行ったところ、経口摂取の数ヵ月後には健康なARR/ARRヒツジの脾臓に有意な量のPrPScが蓄積されることが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2006; 342: 293-299	PrP遺伝子のコドン129での多型とBSEまたはvCJDプリオンに対する感受性との関係を調べるため、ヒト化ノックインマウスにプリオン蛋白を腹腔内接種し、脾臓濾胞樹状細胞への蓄積を調べた。ヒト化ノックインマウスはBSEプリオンにはほとんど又は全く感受性を示さなかった。驚いたことに、コドン129Met/Metを持つヒト化ノックインマウスだけでなく、コドン129Met/Valを持つものもvCJDプリオンに感染した。コドン129Val/Valを持つヒト化ノックインマウスは感受性がなかった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1125-1128	3頭のウシの脳幹から調整したTSE単離体をC57BL/6マウスの脳内に投与した。2つの単離体は高分子量の非グリコシルPrPres(H型単離体)で、1つは典型的なBSE単離体である。大部分のマウスで感染が起こり、H型単離体に感染したマウスの脳にはH型単離体が、BSE単離体に感染したマウスには典型的BSE単離体が存在することがウエスタンブロットにより確認された。H型単離体に感染したマウスの視床には特徴的な空胞化病変がみられた。このことから、BSE単離体だけでなく、H型単離体も種のバリアを超えて病気を発現させる。